



やってみよう!

エコ地藏盆²

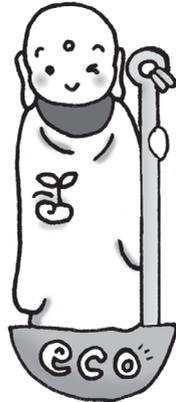
vol.1



おやつ



家庭の景品・おさがり



あそび・プレゼント



ごみを減らす

index

- 1 エコ地藏盆とは～取り組みの視点…………… 2P
- 2 町内の取り組み事例…………… 4P
- 3 遊び・プログラムの提案…………… 18P
- 4 エコ地藏盆実施町内一覧…………… 22P
- 5 あとがき…………… 23P

エコで楽しい
アイデアがいっぱい!

What's
eco-
zizoubon



「エコ地蔵盆」とは、子どもたちの成長を願う京都の伝統行事「地蔵盆」に、環境配慮の視点を盛り込むことを提案したものです。具体的には、以下のようないくつかの項目をあげています。どれか一つの視点からでも、ぜひ、今年の地蔵盆に取り入れてみてください。

※（ ）内は、各視点を取り入れた事例紹介の頁です。

おやつ

- **化学合成された添加物が入っていないものを選ぶ** (P4、8、10、13、16)
原材料欄に書かれている添加物がない、あるいはできるだけ少ないものを選んでください。
- **地域のお店のものを買う** (P8)
売る側と買う側が互いを見知っている安心感があり、個別の相談にも乗ってくれます。地域のお店を応援することにもつながります。
- **ごみが少ないものを選ぶ** (P4、8、10)
一人ひとりに、缶やペットボトルあるいは個包装のおやつを渡すのではなく、飲みものはサーバーやリッターサイズのものからつぎわけたり、おやつもとりわけたりすることで、ごみを減らすことができます。

あそび・プレゼント

- **キャラクターものでないこと**
流行とともに遊ばれなくなるものではなく、工夫して長く遊べるものを選びばごみにもなりにくく、愛着もわきます。
- **電池、電気を使わないものを提供する** (P4、8、13、14、15、17)
電池、電気を使う遊びは日常にあふれています。地蔵盆は、それ以外の遊び方があることを伝える絶好のチャンスです。
- **仲間同士のコミュニケーションを作り出す** (P4、6、8、12、14、15)
同じ町内でも、子ども同士が日常生活で一緒に遊ぶ機会は意外と少ないもの。子ども同士、あるいは親や大人と一緒に楽しむことで、子どもたちはさらに盛り上がります。
- **町内の大人の知恵や特技を生かす** (P6、13、14、15、16、17)
地域の皆さんの知恵や特技を子どもたちに伝え活かす場として、地蔵盆を活用してください。世代間交流にもなります。

家庭の景品・おさがり

●資源を大切にしたものを選ぶ

リサイクル原料を使用したもの、包装の少ないもの、リユース容器のものを選ぶと、ごみの発生も少なく、新たな資源を使わずにすみます。

●化学物質が少ないものを選ぶ（P8、10）

調味料や食品ラップなども、できるだけ添加物等の少ないものを選んでください。

●地元や近郊の生産者、メーカーを応援するものを選ぶ（P8、10）

京都市近郊、京都府内で生産されたものを買うことは、輸送に伴うエネルギーが少なく、地域の生産者を応援することになります。地域経済の支援にもつながります。

●生産地の環境や生産者の暮らしを守るものを選ぶ

海外で生産された商品を選ぶ場合は、現地の自然環境や伝統文化を守り、自立的な生活に必要な代金を支払う「フェアトレード」商品を選ぶといいでしょう。「フェアトレードラベル」が手掛かりになります。



ごみを減らす

●缶や小型ペットボトルの利用をやめる（P4、6、8、12、）

リッターサイズの容器からのつぎわけ、リユース瓶や給茶器などを利用するとごみはぐっと減ります。ビールは、瓶やサーバを注文すると酒屋さんがグラスを貸してくれる場合もあります。

●マイ食器を利用する（P4、6、8、10、14、16）

地蔵盆は、町内で行われるので各家庭からの食器も持ち運びしやすい。使い捨て容器のごみを片付ける手間や購入費用もカットできます。

●リユース食器を利用する

お祭りの規模が大きいなど、各家庭からの食器の持ち寄りが難しい場合は、リユースカップのレンタル（有料）もごみ減量に大きな効果を持ちます。

……上記の視点をもとに、実践した事例を次頁から紹介しています。

また、こうした視点をとり入れた商品等の詳細は、「やってみよう！エコ地蔵盆」（2009年版）で紹介しています。環境市民のWebサイトからダウンロードできます。

eco!

**綿菓子の軸はごまスティック。紙相撲が大盛況!!**

今回の2大目標は、1. ごみをださない 2. 子ども同士のコミュニケーションを促す でした。

ごみ減量で工夫したのはまず飲料。例年、缶・ペットボトル飲料を子ども一人に一本ずつ渡していましたが、今年は給茶器を借りて、各自持参したカップで子どもたちがいつでもお茶を飲めるようにしました。毎年、飲みかけのジュースが誰のかわからなくなってケンカがおきたり、ほったらかしにしていたものがこぼれて騒ぎになったりしていましたが、今年はそれがありませんでした。自分のコップで飲んで、飲み終わったらもとの位置に戻すということは、小さい子もやってくれました。次に工夫したのは綿菓子。通常、割り箸を使うところをごまスティックを使いました。全部食べられてごみもなし。お祭りを終えてのごみは、家庭ごみは20リットル袋でも余裕がある程度、資源ごみも例年よりずっと減りました。



給茶器

同じ町内にいても、普段、子ども同士は意外と一緒に遊んでいません。今回、子ども同士のコミュニケーションを促すために、遊びの時間割を工夫しました。今年は2時間ノンストップで四つの遊びを並行して進めました。遊ぶ子はずっと遊ぶし、休憩したい子はおやつを食べて、また遊んでといった具合で、子どもそれぞれのペースで遊んでいました。親サイドの時間配分ではなく、子どもにあっ



紙相撲

た時間の使い方に変えて、会場となった公園で子どもがずっと遊んでいるという状況を作り出すことに成功しました。

遊び自体はシンプルなもの。なかでもダンボールの箱に土俵を描いて、自分たちで折った人形で年齢別におこなった「紙相撲トーナメント」は、想像以上の大盛り上がりでした。壊れてもいい材料なので子どもたちは思いきり遊べたようです。

6年生には紙芝居を任せました。地蔵盆当日の依頼でしたが、いくつか用意した紙芝居から2冊選んで、自分たちで配役を決めてやってくれました。聴いている年下の子たちも大人がやるときよりちゃんと聴いて、終わった後の6年生たちも「頑張ったで！」という顔で満足している様子でした。



山科区は環境に積極的に取り組んでいる区。そこに住む以上なにかしなければ！と思っていました。子どもたちも、環境のことをちゃんと知っていて、自分もなにかしようと思っています。マイカップ、マイバッグ持参でごみを減らすということも当たり前を受け止めてくれました。まだまだ取り組みたいこともありましたが、やって良かったと思える地蔵盆でした。

eco!



ケータリングでガーデンパーティー。ごみは減らして交流促進。

地蔵盆のことを考えていたときに新聞で小冊子「やってみよう！エコ地蔵盆 vol.1」を見つけ、「これはタイミングがいい！」と思い、冊子を取り寄せました。そして、役員会で冊子とともにエコ地



マイ食器

蔵盆を提案したところ、「皆で盛り上げてやっていきましょう」と会長さんをはじめ、役員の方々に受け入れてもらうことができました。

取り組み内容は、まず、子どものおやつタイムに各自コップや水筒を持参してもらい、お茶を用意しました。次

に、地域の人との交流を図りたいという思いのもと、お茶会を開催しました。子ども的人数が減り、お年寄りが増えてきているなかで、どのようにすればお年寄りにも参加してもらえるかと考えた結果、お茶会をしようということになりました。30名分ほどお茶や菓子を用意していたのですが、それ以上の方が来て下さいました。

夜には、団地の敷地内でのピヤパーティを復活させました。以前されていた敷地内でのピヤパーティは、O-157やカレー事件の影響があったり人手が足りなかったりして、しばらく行われておらず、近年では、近所のピヤガーデンを利用していましたが、参加は一部の人のに限られていました。

今回はみんなで楽しみたいということで、団地の敷地内で行うことを復活させました。そして、このビアパーティでは「食器は持ってきて下さい」というチラシをつ



ケータリングサービス

くり数日前に配布し、当日は食器類を各自で持参してもらいました。また、ビールはビールサーバを、食べ物にはケータリングサービスを利用しました。ケータリングサービスでも、使い捨てではない食器が使用されたので、ごみ減らしに役立ちました。この取り組みを町内の人も良いことであると受け取ってくれているようでした。



たくさんの方に参加してもらえることを目標にした今回の地蔵盆。去年の地蔵盆とやり方を変えたため、皆に参加してもらえるのが心配でしたが、ちゃんと来て下さったのでよかったです。テント張りやお茶会の準備には役員以外の方も手伝って下さり、そこでも地域の人々と交流することができました。また、片づけの際にはごみの少なさに我ながらすごくびっくりしました！



出たごみはこれだけ！

**添加物を少なく。おやつは地域のお店から。**

2008年の夏に「エコ地蔵盆」を紹介する新聞記事を見て、早速、翌年のエコ地蔵盆実施を決めました。そこには、「お菓子を渡すだけの地蔵盆はやめたい！もっと町内の親睦をはかる本来の地蔵盆をしたい！」という町内会長さんの思いがありました。

おやつは、食品添加物の少ないものを選びました。1回目は近所のパン屋さんのパン、2回目は共同作業所でつくられたクッキーでした。おやつ担当の役員さんが自宅から持ち寄った紙袋に入れて子どもたちに渡しますが、1回目のおやつを渡すとき、「2回目のおやつするときも、この袋をもってきてね」と声をかける一工夫がありました。

遊びでは、竹水鉄砲での的当てが子どもたちに大人気。竹水鉄砲は、町内会長さんの手作りで、材料は近所の竹屋さんや布屋さん、糸屋さんが提供してくれたものです。環境カルタをしたり、環境について書かれた冊子をおいて子どもたちが読めるようにもしました。「いつもよりたくさんの子どもが集まった。子どもが環境ということに目を向ける機会になればと思う」と会長さん。



カルタ

大人と子どもと一緒に楽しむこととして、焼き鳥とみたらし団子がこの町内の恒例です。そこで使う器やコップを、使い捨てのものからリユースのものにしました。当初レンタルを予定し

ていたものの、翌年の地蔵盆やほかの行事でも使うことを考えて、プラスチック製の簡易な食器やカップを購入。この食器類は、町内の人々がそれぞれ自主的に各家庭で洗ってくれたものをくり返し使いました。



リユース食器で焼き鳥

飲み物も、前年までは缶や500mlのペットボトルを配っていましたが、それをやめて、大きな容器からつぎわけるようにしました。その結果、ごみは20リットルの袋に1袋（しかも余裕あり）、ペットボトルは2リットル容器が4本くらいとなり、その少なさには町内会長さんも驚きました。

家庭へのお下がりには、食品添加物を使用しない「うね乃」のだしを選びました。普段から食品には気をつけているという背景もあるものの、地蔵盆の時期にホームセンター等で販売される「地蔵盆セット」は、「お仕着せのセットものは、買わされるかんじが嫌だから」ということも理由の一つだそうです。



不要品交換

いろいろ提案するなかで、役員さんからの提案も出てきました。各家庭で使わなくなったものを持ち寄って、それぞれ自由に持ち帰れるようなコーナーが作られていました。



自分で工夫をするのも楽しかったが、私の呼びかけに、町内外の人がそれぞれの役割や立場で考えて協力してくれたことがとても嬉しかった。

eco!

**添加物を少なく。取り組み周知の掲示板設置。**

手間や経費が多少かかっても、子ども達にエコの精神がちょっとでも伝わればと思ってやってみました。「できる範囲で」をモットーにやってみようということで、町内の同意が得られました。

おやつ選びでは、アレルギーなどで一人だけ違うおやつをもらったり、もらっても食べられない子どもがいたりすると可哀想なので、子どものいる家庭にはアレルギーの有無をたずねて、みんなが食べられるものを選びました。幸いアレルギーをもつ子どもはいませんでした。安全なものを食べさせたいと思い、食品添加物の入っていないクッキーを共同作業所の「さくさく工房」から取り寄せました。「子どもたちと一緒に作る」こともしたかったので、かき氷や杏仁豆腐づくりもしました。おやつの器やお茶のコップは、できるだけ各家庭から持ってきてもらうように、事前案内のちらしで呼びかけたところ、ほとんどが持参してくれました。おやつに出したジュースは、瓶入りの100%ストレートのりんごジュース。これは、役員の方がお地藏さんにお供えしたものです。「味見してもらえたらと思って」と、お下がりとして子どもたちが持参したカップにつぎ分けました。

子どものいない世帯へのお下がりには、京都市内のメーカー（山田製油）がつける添加物のない「ごま油とすりごまのセット」にしました。自分では買わない人にも、もらって使うことで「こんな商品もあるんだ」と気づくきっかけになればと思ってのこと。おやつも

お下がりも、受け取った人が気に入ったらお店に連絡ができるように、お店の紹介カードをいれてもらいました。

どうして「エコ地蔵盆」なのか、おやつやお下がりはどういうものを分かってもらえるように壁新聞をつくって会場に貼る工夫もしました。



掲示板



担当者の声

とりよせた冊子を役員のみなさんにも見てもらいながら取り組みを提案しました。町内会長さんにも度々相談しながら、進めていきました。子どものいる人からは「子ども達も学校で環境のことを学んでいるし、いいと思う」という反応をもらいました。マイカップ持参など、はじめてで戸惑う方もいらっしゃいましたが、皆様に受け入れられる、子どもたちのためのエコ地蔵盆が地域に根付くといいなと思いました。



町会会長の声

これからのことを考えるとエコは大事ですね。子どもたちは、はじめ「いつもと違うぞ!？」というような顔でしたが、慣れてくるといつものように元気に遊んでいました。これからは、エコに取り組みたいと思います。

eco!



サーバとジョッキでごみ減量。子ども料理長も登場

地蔵盆に「何か新しいアイデアを」と取り寄せた冊子を見て、身近に出来ることからはじめようと一念発起し、マイ食器の持参に取り組みました。乳飲み子を抱えて参加するお母さんや、ご年配の方も多いため、予備の皿を準備するなど取り組みが強制にならないように配慮しました。



ビールは、サーバからグラスに注ぐ

また、夜の懇親会で出すビールは、例年缶だったものをやめ、町内の酒屋からサーバとジョッキを借りて、生ビールに変更しました。ジョッキでビールを飲むことで、飲み残しがなくなり、ごみもぐっと減ったため片づけの手間が大きく省けました。

さらに、今年は子どもの主体性を引き出すために、花の展示会と子ども料理長の取り組みをしました。花の展示会は、2か月前に町内の花屋から種をいただき、地蔵盆当日まで町内の子ども達に育ててもらいました。当日持ち寄られた花は、育て方で少しずつ大きさが異なり、子どもも大人も勉強になりました。また、夜の懇親会の料理を6年生の子ども達に任せ、焼きそばや焼き鳥をふるまってもらいました。子ども達は積極的に役割分担をし、アイデアを出し合ってくれました。「楽しませる側」に味をしめたのか、また来年も料理長をしたいと言っています。





リサイクルコーナー設置。児童館からの遊びの提供。

子どもからお年寄りまで参加できる、町内の人との交流が広がっていくような地蔵盆にしたいという思いがあり、他の役員の方にエコ地蔵盆を提案しました。皆さん子どものおられる方で共感して下さり、次のことに取り組むことができました。

まず、リサイクルコーナーを会場である公園に開設しました。商品は、おもちゃや本、洋服など自宅に眠っているものを事前に町内の皆さんから提供してもらい、それを参加者に無料で持ちかえてもらいました。他には、家にある紙袋の使用や着色料が入っていないお菓子の選択、遊びには紙飛行機飛ばしや児童館の先生によるお楽しみ会を実施しました。また、以前は子どものみだったお弁当の配布を大人にも行いました。すると、一人暮らしのおばあさんが地蔵盆に参加しに家から出てきてくれました。このようなことは、初めてでした。



担当者の声

誰が参加しているのかわからないままに終わってしまう感じがあったので、今回このような案を出しました。「エコ」や環境問題を通して、地域のコミュニケーションの在り方を考えました。



手作りの遊び。食器持参で楽しい会食。

少子化で簡素化の一途をたどる町内の地蔵盆を変えたい、お地蔵さんの前で子ども達がずっと遊んでいるという、地蔵盆本来の姿を取り戻したいという思いから、多くの遊びの工夫をしました。絵が得意な町内会長さんが自ら、いろんな種類の魚の絵を描いた魚釣りゲームや、前夜祭では親子二人三脚でのリレー競争などを行ない、子ども達は大喜びでした。お母さんたちからは、「うちの子がこんなに喜ぶのは初めて」と、役員さんへの感謝の言葉がありました。また、昼食はファストフードだと、子ども達が家に持って帰ってしまうので、今年は、カレーライスを復活させました。環境を意識し、食器とスプーンは持参です。大人も子どももみんなが集まってわいわい食べることで、楽しい会食風景が実現しました。

さらに、坂や車の入れない細い路地が多い地域に位置する町内の背景から災害時への備えとして、アルファ米という保存食を前夜祭で提供しました。地蔵盆でいろいろな提案をすることで、本来の地域の親睦となる地蔵盆に近づくだけでなく、環境問題や自主防災を意識するきっかけになればという考えでのとりくみでした。



カレーのお皿は
各家庭から



手作りの魚釣り
ゲームカード



町内の人材・資源をフル活用の遊び。

担当者の方には、「子どもたちに楽しい思い出を残してあげたい」、「子どもと高齢者を繋ぎたい」という思いがありました。その思いを実現させるため、地域の人の特技や仕事を活かして、次のような取り組みを行いました。

まず、町内の紙屋さんから厚紙の切れ端をもらい、そこに絵と子どもの名前を描いたおやつ券を手作りしました。子どもの遊び道具として、大工である町内会長さんが木材で動物やゴルフのゲート、組み立て式の飛行機、ス



5作

マートボールを作られ、子どもたちはそれで楽しく遊んでいました。女の子には、近所の数珠屋さんから譲ってもらったビーズで作るブレスレットづくりが好評でした。また、この地域では「謡い」が盛んであることから、子どもと高齢者が平敦盛を謡った「青葉の笛」という物語をテーマに、絵本の読み聞かせ、おばあちゃんたちによる学校唱歌、おじいちゃんたちによる謡いの披露が行われました。



担当者の声

自分のところに役が回ってきた今回、子どもたちに何かしてあげたいと思いました。終わってからお礼を言われたことが、嬉しかったです。また、勉強にもなりました。何でもやっていくことで、自分が大きくなると感じた地蔵盆でした。



みんなで一緒に手作りおやつ。

「手作り」にこだわって、たこ焼きづくりとパンづくりに取り組みました。

お昼ご飯がわりのたこ焼きは、前年、町内のお母さんたち有志の始めたこと。このとき費用はお母さんたちの持ち出しでした。でも、子どもたちがとても喜んだこともあり2009年は、町内での取り組みとして行いました。お皿や箸は各家庭からもちより、会場になったお宅の台所を借りて準備や洗い物も行われました。



お母さんたちによる
たこ焼き

もう一つの手作りがパン。会長さんが趣味を生かして、子どもたちと一緒に生地をこねて焼き上げました。「パンは買うもの」と思っている子どもたちに、触れる、香る、つくる、見る、食べるという五感を使う楽しさを体験して欲しいという思いからでした。子どもたちは、できたパンを親や町内の人たちにプレゼント。皆が「うまい!」「おいしい!」と食べる様子を見て、子どもたちの満足度はさらに高まった様子でした。



担当者の声

小さいときに「自分たちが大切にされた」という経験をすることはとても大切だと思います。それを手作りという思いにこめました。でも、それにかかる手間のことも考えると、なかなか決断できなかったのも事実です。パンづくりは、地蔵盆の3日前に「エコ地蔵盆」を知って、取り組むことにしました。

eco!



役員と実行委員が二人三脚で遊びを工夫。

こちらの町内では、役員とは別に地蔵盆の実行委員会が立ち上げられていました。実行委員会は、18才の若者、子育て中の人、自分の子どもはすでに独立した人等13人で構成されていました。役員だから…、と任せきりにせず、「できる人、子どものことに関わりたい人が少しずつ力を出し合おう」という考えで、役員と実行委員会が連携して進めました。そして「子どもたちの遊びをとことん工夫しよう!」と準備されたとのこと。

四つの遊び「あずき魂」「しゅりけん忍者」「燃えろ水鉄砲」「輪投げ2009」は全て手作りです。「あずき魂」というゲームは、お盆の小豆を小学生は箸で茶碗に10秒で5粒うつす（未就学児はスプーンで10粒）というゲーム。昔ながらの遊びで、とてもシンプルですが、このゲームが一番おもしろかった、という子どももいました。輪投げの的には、地域の飲食店から借りたりリユース瓶の空き瓶を使ったり、間仕切りには野菜の仕入れに使った後のダンボールを使うという工夫がありました。どのゲームも何度遊んでもいいことになっており、2時間のあいだ、会場となった公園に子どもたちの声が絶えることがありませんでした。



担当者の声

地域の人たちが一緒に一生懸命何かできたことがうれしい。子どもたちを楽しませるため準備の段階で、また当日の声かけなどにいろいろ工夫がありました。地域のために何かしようと思う人が沢山いることが判ったことは、大きな収穫であり、心強い限りです。

地蔵盆での「遊び」は、子ども同士はもちろん、子どもと大人が一緒にとりくめる楽しさがあるもの、子どもたちがお地藏さんの前でずっと遊んでいられるようなもの、とそれぞれの町内が知恵を絞っています。

これまでのエコ地藏盆でも、各町内それぞれの工夫がありました。それらに共通していたのは、町内のなかの人材や地域が持っている資源を上手に活用していたことです。町内には、いろんな特技を持っている人がいます。地域の商店の方が工作の材料を提供して下さることもあれば、それぞれの仕事や趣味を通じて得た知識や技術で、子ども向けの工作や学びの指導をして下さる方もいます。

子どもたち（特に5～6年生）に役割を与えたことが、子どもたちにとって新たな楽しみになったという例もありました。「してもらうより、何かしたい!」。子どもたちの気持ちに応えた一工夫です。

大人の出番!

読み聞かせの活動をしている人による絵本の読み聞かせ

町内に数ヶ所ポイントをもうけたスタンプラリー

お母さんが趣味をいかしてパンづくりを指導

竹屋さん：
水鉄砲工作の材料提供

学生服屋さん：
古着を使ったこまづくり、フェルト工作

造園業者さん：
竹の調達と水鉄砲、竹ぼっくりづくりの指導

地藏盆を案内するチラシで、特技の披露や提供を求めたところ、町内の方が応じてくれたという例もありました。

子どもの出番!

屋台での「子ども料理長」メニューの決定から当日の調理までを担当。

6年生による紙芝居の上演

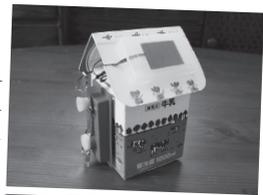
大人と一緒に運営側スタッフとして、おやつやおもちの配布などを担当
[地藏盆終了時に、町内会長から「感謝状」を進呈しました。]

ぜひ、この機会に身近な「ワザの提供者」を見つけてください。

NPOや公共施設、あるいは各種サークルに協力を依頼する方法もあります。以下には、主に京都市内で活動していて、環境問題をテーマにしたプログラムや教材を提供する団体を紹介いたします。詳細については、各団体にお問い合わせください。

各団体にご連絡いただく際の注意……実施の際、材料費、人件費、交通費等が発生する場合があります。実施にあたっての詳細は各団体と町内の間でおこなってください。

リサイクル工作 **ワークショップ**



団体名	幼児のための環境学習プログラム作成の会	
住所		
電話		
FAX	075-612-2615	
URL	-	
e-mail	amano.mitsuo@nifty.ne.jp	
内容	リサイクル材料を使用する工作を通じて環境問題について学ぶ体験型環境教育プログラムです。ソーラーパネルと牛乳パックを利用したソーラーメロディハウスづくり（写真 教材費実費 600 円 / 人）や、アフリカの民族楽器「レインスティック」をつくり水について学びます。	
対応可能人数	10 人程度（相談に応じます）	実施地域 京都市内
所要時間	各 1 時間程度	
その他 特記事項	材料の準備には、各町内の協力をお願いします。詳細はご相談ください。	

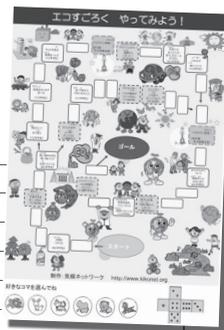
エコネコ人形劇 **ワークショップ**



団体名	日本環境保護国際交流会（J.E.E）	
住所	〒 603-8149 京都市北区小山南上総町 34	
電話	075-417-3417	
FAX	075-417-3417	
URL	http://www.jeeeco.org/	
e-mail	info@jeeeco.org	
内容	「エコネコ」が主人公の人形劇。日常生活でとりくめる環境を守る行動を、子どもから大人までわかりやすく、楽しく伝える。テーマは、「水筒とマイバッグ」「森を守ろう」など。	
対応可能人数	30 人程度まで（ご相談ください）	実施地域 京都市内
その他 特記事項	上演テーマによって工作との組み合わせも可。	

エコすごろく 教材貸出

団体名	NPO 法人気候ネットワーク		
住所	京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル 305 号		
電話	075-254-1011		
FAX	075-254-1012		
URL	http://www.kiconet.org/		
e-mail	kyoto@kiconet.org		
内容	私たちの暮らしと地球温暖化のつながりをすごろくで体験します。ご希望の方には、カラー原版（A4 サイズ）をお渡しします。拡大コピーしてのご利用も OK です。通常のすごろくとして楽しむ他、人が駒になって進める遊び方など、より効果的な楽しみ方のアドバイスもできます。		
対応可能人数	1 セットにつき 5 ～ 6 人	対象地域	全国
その他特記事項	すごろくの原版はメール送付も可。郵送の場合は、送料をご負担ください。		



紙芝居や発電体験 教材貸出

団体名	京都府地球温暖化防止活動推進センター		
住所	京都市中京区柳馬場二条上る 6 丁目 283 番 4		
電話	075-211-8895		
FAX	075-211-8896		
URL	http://www.kcfca.or.jp/		
e-mail	center@kcfca.or.jp		
内容	地球温暖化問題と日常生活を結び付けて考えられる教材やキットの貸し出し。地球温暖化問題をわかりやすく伝える紙芝居、発電体験ができるキット（写真）、各種計測器などがあります。教材の効果的な使い方の相談にも乗ってくれます。貸し出し教材一覧はこちらから。 http://www.kcfca.or.jp/center/kasidasi/kasidasi.htm		
対応可能人数	教材により異なります。 お尋ねください	対象地域	京都府内のみ
その他特記事項	いずれの教材も、貸し出しは京都府内のみ。レンタル無料。ただし、送料は実費をご負担ください。		



STOP 地球温暖化かるた 教材貸出



団体名	NPO 法人環境市民		
住所	京都市中京区寺町二条下る 呉波ビル 3 階		
電話	075-211-3521		
FAX	075-211-3531		
URL	http://www.kankyoshimin.org		
e-mail	life@kankyoshimin.org		
内容	地球温暖化の原因、引き起こされる現象、防止のために私たち市民にできることをカルタで遊びながら知ることができます。普通のカルタとしても、環境教育の教材としても使えます。読み札のうしろには解説もあります。絵札が A4 サイズのものもあります。		
対応可能人数	1 セット 5 ~ 6 人が最適です。	対象地域	全国
その他 特記事項	貸し出しは、1 セット 500 円 + 送料実費。		

..... 児童館にきてみよう!

児童館は、乳幼児から高校生がいつでも自由に行ける施設です。子育て相談等の機能も持っています。京都市内には、現在約 120 の児童館があります。

児童館の職員さんは、子どもたちとの遊びの技術もたくさん持っていて、遊びのアイデアや実施にあたっての協力を得られます。また母親グループによる読み聞かせなどの活動を行っている児童館もあります。児童館でも、地域の人たちと一緒に取り組めることがないか探していますので、気軽に相談してみてください。お住まいの地域の児童館は、こちらから調べることができます。

 京都市内児童館一覧

http://www.kyo-yancha.ne.jp/jidokan-j/j_list.html



エコ地蔵盆実施町内一覧

エコ地蔵盆は、2006年から始まりました。この冊子で取り上げた町内以外にも多くの取り組みがありました。紹介事例を含み、昨年までにエコ地蔵盆に取り組みられた町内を紹介します。

注) 本会で提案したエコ地蔵盆のとりくみのうちひとつでも取り組みられ、報告をいただいたり、本会からの取材等によって取り組み内容を確認できた町内を紹介しています。このほかにも取り組みをされたところがありましたら、ぜひお知らせください。

2006年	【中京区】天守町※
2007年	【中京区】天守町※、三本木五丁目町【北区】大宮薬師山西町・東町※ 兵庫県加東市の一町内
2008年	山科区安朱屋敷町※、右京区中田町※、下京区中堂寺壬生川町、伏見区落保町
2009年	【中京区】聚楽廻西町、三本木五丁目町、槌屋町、千本上南町東部、【山科区】大宅辻脇町、竹鼻立原町【伏見区】京町大黒町【下京区】大松町【左京区】北白川別当町、下鴨北山町・北園町、下鴨貴船町北部、公団高野第1住宅、岩倉萩の台自治区【東山区】五条新道町【右京区】八反田町【北区】小柳町【草津市】平井西町

※のついた事例については、2009年3月発行「やってみよう！エコ地蔵盆 vol.1」で紹介しています。環境市民のwebサイトからダウンロードできます。2009年版では、添加物を使用しないおやつやお下がりの紹介もしています。あわせてご利用ください。

家電エコポイント制度を活用した寄付のお願い

エコ地蔵盆プロジェクトは、「家電エコポイント制度」の寄付対象プログラムです。省エネ家電購入時に発行されるエコポイントをぜひご寄付ください。皆様からの寄付は、エコ地蔵盆に関する情報発信のための小冊子やウェブサイトの作成のほか、地蔵盆をはじめとする地域のお祭りの環境負荷を減らす取り組みのために使用します。寄付の際に必要な環境市民の事業者コードは、K138 です。皆様のご支援をお待ちしております。

2009年度は、16,787円の寄付を頂戴しました。ありがとうございました。

 詳しくはこちらをごらんください

<http://eco-points.jp/>



あ　と　が　き

エコ地蔵盆の始まりは、お祭りのあとのごみの多さ、化学合成された添加物が多く使われたお菓子類に、子どもの成長を願うお祭りなのにその将来の社会を危くするような要素の多いことに、疑問を感じたのがきっかけでした。

*

2009年、エコ地蔵盆の取り組みを紹介した小冊子「やってみよう！エコ地蔵盆」を発行したところ、京都市内外からたくさんのお問い合わせをいただきました。みなさん「地蔵盆をなんとかしたい！」という気持ちをお持ちでした。そのなかで「子どもの頃に、大人達からしてもらって嬉しかった、楽しかったという体験がなければ、その子が大人になった時に、次の子どもたちにしてやることはできない。だから、地蔵盆を楽しいものにする」というお町内の方の言葉はとても印象的でした。

*

2009年は、全部で20近いお町内が地蔵盆を実施されました。本書では、そのうちの10町内の事例を紹介しました。地蔵盆を盛り上げる切り口の一つとして、「環境」という視点を取り入れることが、町内の大人にも子どもにも新たなつながりと楽しみを作り出すことは、これまでの各町内の取り組みで明らかになっています。

2010年、すでに地蔵盆の準備をはじめた町内も、これからの町内も、この冊子で紹介している各町内の事例や提案をヒントに、それぞれの町内でアレンジしていただければと思います。

*

地蔵盆は、隣り合う町内であっても取り組みが違うことが魅力の一つです。今、「地蔵盆をなんとかしたい」と思う人たちがいて、なにか変えよう、工夫をしようとするところこそが、自分たちの地域をどのように作っていくのかという発想の原点でもあるように思います。そうした地域内でのコミュニケーションをへて、地蔵盆が、そして地域がもっとバリエーション豊かなものになるために役立てればと思っています。

「やってみよう！エコ地蔵盆 2」

作 成：特定非営利活動法人環境市民
エコ地蔵盆プロジェクトチーム

写真協力：各町内の皆様

イラスト・デザイン・レイアウト：下司 智子

発 行：特定非営利活動法人環境市民

代表理事：枚本 育生

住 所：〒604-0932 京都市中京区寺町二条下る
呉波ビル3階

電 話：075-211-3521

F A X：075-211-3531

U R L：http://www.kankyoshimin.org/

e-mail：life@kankyoshimin.org

発行年月：2010年6月

印 刷：(有) 紵書房



特定非営利活動法人 環境市民

環境市民は、1992年に発足し、活動している環境NGOです。環境問題を総合的な視点でとらえ、持続可能な社会の実現を目指しています。多くのボランティアとともに行う調査研究にもとづき、地域、行政、企業ともパートナーシップで環境負荷の少ない暮らし方の提案や情報発信、施策の提案を行っています。活動の趣旨に賛同し、ボランティアとしてまた、会員として活動を支えてくださる方を募集しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

※ この冊子は、「2009年度近畿ろうきんNPOアワード」の助成金を受けて作成しました。

※ この冊子は、再生紙に自然エネルギーを使用して大豆インキで印刷しています。



本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。